

9 性的指向・ジェンダーアイデンティティ

1. 目的

これまで、性別は「女性」「男性」の2つのみという認識がされていました。しかし、性に関する考え方は多様であり、顔や人格と同じように、性は個人によって様々です。「性のあり方は虹のようなグラデーション」と言われています。これまでの当たり前にとらわれず、性の多様性について理解を深め、互いに尊重することの重要性を学びましょう。

2. 進め方（ワークシート活用例）

ワーク 進め方とファシリテーターの視点

I

1 「多様な性」という言葉からイメージできることを考えてみましょう。

＜視点1＞ 色や服装、趣味等で男女のイメージを持っていることが多いと考えられます。
 （例：服は赤やピンク系の色を好む→女性、日曜大工や力仕事が好き→男性）
 性に関してこれまでの経験や先入観など「自分の当たり前」が、実はLGBT等の当事者を取り巻く、様々な偏見や差別につながっている、ということに気づきます。

2 資料①を参考にして、多様な性に関する問題について確認してみましょう。

＜視点2＞ 令和3年度に滋賀県民の約63%が「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でない」と回答しています。
 私たちの周囲にいる人々でLGBT等の当事者の方が身近にいるという認識に立つことが、多様な性に関する理解や認識を深める第一歩となります。

II

●資料②、「知ってほしい『カミングアウト』と『アウティング』」を参考にして、LGBT等の当事者の方は、どのようなことに困っているのか話し合ってみましょう。
 また、自分たちの家族や友人など、身近な人から「性に関する悩み」を打ち明けられたら、どのように対応することが望ましいか考えましょう。

＜視点3＞ なぜ若い世代のLGBT等の当事者が自殺を考えることの割合が高いのか、その背景にある困り感や悩みについて考えます。相談したくてもできない、他の人に言いふらされてしまうのではないかなど不安感や孤独感について当事者意識をもてるようにします。

＜視点4＞ LGBT等に関する「カミングアウト」「アウティング」について正しく理解することが必要です。LGBT等の当事者にとって、カミングアウトすることはたいへん勇気が必要な行動です。

打ち明けられたときには「話してくれてありがとう」と、まずはLGBT等の当事者の不安や悩みに寄り添いましょう。そしてカミングアウト後について「どうしたいか」「他に話せる人はいるか」についてしっかり確認することが大切です。

人権教育啓発
センター



参考 「みんなが自分らしく～性の多様性を考える～ 性的指向・性自認・性別表現」
 （滋賀県公式HP → 県民の方 → くらし → 人権 → 啓発冊子 に記載）

「みんなが自分らしく～性の多様性を考える～ 性的指向・性自認・性別表現」
 （公益財団法人 人権教育啓発推進センター）

III

●誰もが「自分らしく生きていける」ようにするために、自分たちができることを語り合しましょう。

＜視点5＞ 「女性は（男性は）こうあるべき…」という価値観を押し付けることで、性に関する偏見や差別で生きづらさを感じている人がいます。「マイクロアグレッション（小さな攻撃性：無意識の偏見や差別）」のように、傷つけようとする悪意がなくとも、人を傷つけてしまうことがあることを踏まえ、これからの社会でみんなが「自分らしく生きていける」ように、小さなことからでも今から自分にできることを考えます。

3. より深く学ぶために（資料）

- ・「ちょっと勉強 人権の友」（公益財団法人 滋賀県人権センター）
- ・「じんけん通信」（滋賀県ホームページ）

滋賀県人権センター



滋賀県 じんけん通信

